

北 総 の カ

～思いを伝えるチーム ほ・く・そ・う～



情報活用能力を育成するための教科等横断的な学習

印西市立原山小学校の取組

令和2年11月11日に印西市立原山小学校で、印西市教育研究会授業研修会が行われました。原山小学校では、学習指導要領全面実施に伴い「情報活用能力を育成するためのカリキュラム・マネジメント」の研究を行っています。

「カリキュラム・マネジメント」を実施するためには、各学校の児童や地域の実態に応じた教科横断的な目指す児童像を作成し、3つの柱（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等）の具体的な力に落とし込み、さらに主体的・対話的で深い学びに向けてどんな方法をとるかを各学校で設定することが大切です。

そこで原山小学校では、目指す児童像を「情報活用能力」として設定しました。また、学習を主体的にするために、SDGsの視点を使った教材開発の実践を行っています。さらに対話的で深い学びをするために、「ロイロノート」というソフトを活用した実践もしています。

当日は、総合的な学習の時間2学級、社会科1学級の授業が展開されました。特に、ロイロノートを活用した授業実践は、これからのGIGAスクール構想を視野に入れた学習展開となっていました。ロイロノートの特に優れているのは、児童の思考の協働性を促進する点です。そのために、個の考えを付箋化し、それを共有スペースに落とし込み、思考ツールを使って、グループの考えを即座に可視化することができます。

社会科の授業の中では、スーパーマーケットの工夫をすぐに付箋として、共有スペースにアップします。それを思考ツール「PMI」を使いグループの中で分類をしていきます。通常、紙を使って行う作業が簡単に、タブレットの中で行われていました。数回、授業の中で実践している子供たちはこのソフトを難なく使いこなしていました。個の作業をさらに集団作業にするかについては、改善の余地はありますが、これからの授業実践の中で、さらなる伸びを感じさせる楽しみな展開になっています。



ロイロノートで活用された思考ツール PMI